

モンゴルへ行って来ました

パンテツクユニオン事務局長 井上育也

2002年12月17日から22日にわたり、但東町にある日本モンゴル博物館の金津館長よりご紹介いただいた在モンゴル日本大使館のデムベレル上級事務官の協力により、モンゴルのオブス県マルチン郡にある小・中学校を訪問し、現地の状況を確認するとともに図書贈呈を目的とした打ち合わせを行ってきました。

「モンゴルといえば大草原」とイメージされる方が多いと思いますが、12月は当然「冬」で、それも氷点下20℃となり、夏場の大草原から一転、一面白銀の極寒の大雪原となっていました。しかし、学校や公共の施設ではスチーム暖房が行き届き、ゲルでは薪や石炭を燃料とした鋼製ストーブがあり、屋内は20℃前後に保たれ半袖でも十分なほど、暖かく保たれていました。

今回訪問したオブス県マルチン郡は、モンゴルの首都ウランバートルより西へ約1,200kmのところに位置し、国境こそ面していませんがもう少し西へ行けば隣国カザフスタンとなります。モンゴルの学校では教科書は政府から支給されますが、絵本、童話、参考書や文学書といった図書が充実していませんでした。



今回の訪問で学校関係者をはじめオブス県やマルチン郡の方々へ、パンテツクユニオンが行おうとしている図書贈呈について説明を行うと、大歓迎を受けるとともに、「図書の贈呈だけでなく、子供たちとの交流も深め、ひいてはモンゴルと日本の関係がより良好になるように続けて欲しい」とのことばをいただきました。

つぶらな瞳を輝かせ授業に聞き入る子ども、寮ではろうそくの灯りで宿題に励む子ども、いつでもどこでも屈託のない笑顔で迎えてくれたたくさんの子供たちの姿がありました。ひたむきに一生懸命生きている子供たちの姿からたくさん元気もらいました。この子供たちのためにも、自分自身のためにも図書贈呈を行いながら無理なく長く交流を続け、お互いの成長を感じていきたいと思いました。今後ともみなさんのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。